



御光筆 ^{けんぶわ} 健富和

引首印 大光明
落款 自観書
落款印 岡懋之印
東山莊主
教団所蔵



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表03(3413)0123
<http://sukui.jp>
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費を含む)

2025
No.629
新年号



御手代 (扇) ^{みてしろ} 【万有の霊体浄むる此扇】

落款 暉月 (裏面) 昭和5年 教団所蔵

神の光に包まれて
明るく生きる喜びは
暗い運命の魂浄め
真の幸福を拓め行く
ああ浄霊 ああ浄霊
明主様の賜いし 火の洗霊
【教団歌・浄霊讃歌より】



謹賀新年

令和七年・二〇二五年 乙巳

令和七年・二〇二五年 教団方針

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

会長 山崎明憲

明けましておめでとございます。

令和七年・二〇二五年、乙巳の新玉の年をむかえ、救いの光教団は五十三年目の第一歩を歩み始めました。皆様方におかれましては心新たに健やかな新年をむかえられましたことお慶び申し上げます。

今年、担当教師、助師をはじめ信徒代表、役職信徒の皆様を中心に信徒の皆様のご誠心のもとに教団、光導師の運営がなされましたこと感謝申し上げます。

今年は、十干十二支では乙巳(きのと・み)にあたります。乙は陰陽五行説では「木を表し」「陰」の性質を持ち、植物が成長し広がっていく意味があり、柔軟性や協調性を象徴しています。また、巳はご存じのように蛇を表します。古来より神聖な生き物とされてきていることもあり、脱皮を繰り返して成長する姿はたくましい生命力と再生を意味しているようです。このような事から今年が物事が成長して実を結ぶ年という事にもなるのではないかと思います。

また、八は末広がりを表します。今年の教団方針は、昨年、光守様よりお示しいただいた方針を継続させていただきます。先に記した扇のように明主様の教えを要として、救いの光教団は、その名の通り「救いの光」をどのよう

に世の中にかざしていくべきか、今の時代に即した教団のあり方を皆様とともに求めてまいりたいと存じます。

最後に、年頭の御光筆に「健富和」を賜りました。明主様の御書きになられた御文字はその通りのおはたらきをされます。皆様のもとに大光明・明主様の御光が降り注ぎ、心身とも健やかに、生活の富が訪れ、和の心と行いのもとに幸福な日々が与えられます事、また光守様のご浄化が良き方向にお導き頂ける事を切に願ひ新年の御挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



光守様と会長(左)

また、天啓祭・鋸山日の出参拝をはじめ大御祭典を滞りなく執り行う事が出来ました事、さらに各布教拠点におかれましては、担当教師、助師をはじめ信徒代表、役職信徒の皆様を中心に信徒の皆様のご誠心のもとに教団、光導師の運営がなされましたこと感謝申し上げます。

また、社会に目をむけますと内外共に「病貧争」の様相も色濃く、混沌としている状況が感じられます。私たちは神への感謝と祈りの大切さ、浄霊による救いの業を与えられています。さらには明主様の『神言霊』によりこの救いの業をどのよう

第一号の御手代 御代理 鎮魂

岡庭弘美(故人)

大先生(御創業頃は明主様をこのようにお呼びした)は、もとは大本教の信者であられたが、大本教の御手代(みてしろ)をお使いにならず、御自分のお手で御治療(鎮魂)をなさっておられた。それで治病力も抜群であり、御自分の信念により行動なさっておられた。また、御手代(御扇子にお文字が書かれている)も御自らお書きになり十名位のお弟子を持たれておられた。私の父、真次郎も大先生に心酔し、大先生から御手代の第一号を戴いた事を誇りとしておりました。昭和七年二月、大先生が二三名のお供を連れて綾部の大本教本部の聖師様(出口王仁三郎師)に御面会に行かれた。その留守中を父が大先生より授かった御手代により、大先生の御代理として、始めての治療(鎮魂)をさせていただきます。くご用を命ぜられたとのことです。その時の父の心境は自分のような者が、はたして大先生の御代理が出来るかどうか、大先生と変わらぬ治病力が出るのか、万一患者さんを減らしてしまつたらと、大変な心配であったそうです。しかし、その第一日目の初めての治療(鎮魂)を終つたところ「ああいい気持ちだ、大先生とちつとも変わりませぬね。」といわれ、天にも登る心地、大先生の御手代の偉大さ、お力の強さに大感激、大先生のご用をさせていただける自分のなんと有難いことかと本当に感謝、感激の心で一ぱいだったとのことです。

【神成二号 昭和四十八年二月一日 掲載】

※岡庭弘美氏は、明主様の直弟子で側近でもありました岡庭真次郎氏の御子息にあたります。長年、救いの光教団の教師として御用されておりましたが平成十七年十一月に帰幽されました。

シリーズ **火水土の恵み** コーナー

火水土の恵み感謝祭特集

猛暑の年、稲作は増収、
各地からは立派な農産物が届く
自然農法のすばらしさを実感！

トピックス



御神前にお供えされた御初穂（最上段右）と無施肥無農薬の農産物（二段目左から二つ目、右手前）

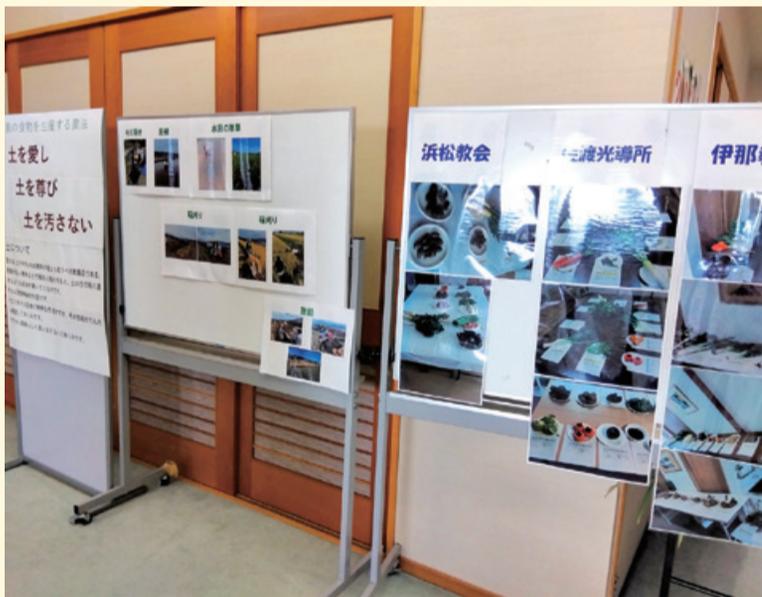


伊那水田の報告はプロジェクターを使用して戸塚教師より行われた

令和六年十一月二十三日、東京本部にて「火水土の恵み感謝祭」が執り行われた。地方の教会では先行して十七日に執り行われたが、この日の大御祭典にあわせて東京教会感謝祭、こども祭祈願が執り行われた。

御神前には教団伊那水田で収穫された御初穂をはじめ無施肥無農薬野菜と金粒米がお供えされ、感謝の祭典が執り行われた。今回も教団伊那水田での活動報告、農産展が開催され、伊那農場産の長ネギを中心とした野菜販売コーナーも開設された。

前日より東京教会の健美会役員を中心に準備が行われ祭典当日をむかえた。農産展会場では東京教会をはじめ、滋賀教会、長野教会、伊那教会など各教会から寄せられた農産物や、各教会で行われた農産物展示の様子が写真で紹介された。農産物は野菜やイモ類、果物などで、どれも立派な作物で今年の恵みを直接感じられた。パネルを使用し展示方法に工夫を凝らして多くの写真を見栄え良く展示したことで会場は昨年よりも充実していた。



各教会で行われた農産物展示写真の展示はパネルを使用して行われた



会場には各教会から数多くの立派な農産物が展示された



伊那水田で収穫された稲穂は稲を干すハザを模してかけられて展示された

教団伊那水田の活動報告は自然農法担当の小林、戸塚両教師により報告が行われた。初めに小林教師より今年の作業に関する感想などの話があり、その後、戸塚教師よりスライド映像を交えての報告が行われた。スライドでは水田の様子や作業の写真のほか、今年までの成果の推移を表したグラフを用いた説明もあり、昨年よりも収穫量が増収したことが伝えられると場内からは拍手が沸き起こった。

祭典終了後には伊那水田米の新米を用いたおむすび弁当と教団圃場で収穫された長ネギ

を使った味噌汁がセットで販売された。収穫して間もない無施肥無農薬米に加え、以前から好評を得ている長ネギの美味しさに少し多めに用意したおむすびと味噌汁はあっという間に完売となった。

◎自然農法担当者からひとこと

「今年も大勢の皆様の御協力を頂き、無事に火水土の恵み感謝祭が執り行われました。祭典奉仕へのご協力並びに農産物をご提供頂きました皆様には心より感謝申し上げます。」

トピックス

火水の恵み感謝祭特集 (続き)



過去の貴重な自然農法の冊子やチラシなども資料として展示された



玄関ホールに設けられた売店には長ネギとおむすび弁当が並んだ



好評の長ネギの販売準備の一コマ

トピックス

長野教会本部参拝

きつかけはある信徒の一言から本部参拝が実現

令和六年十月二十七日、長野教会信徒を中心に十七名の信徒が本部参拝のため上京した。コロナ禍からそれ以降、団体での本部参拝が控えられていたこともあり本部への参拝が遠ざかっていたことから、「本部に参拝をしたい。」という長野教会のある高齢信徒のひとことにより、信徒代表と光導実践委員長が中心となり参拝計画を立案し、長野教会はもとより同県の伊那教会、岡谷光導所

にも呼びかけを行い、参拝希望者を募り参拝日をむかえた。当日早朝、バス一台にて長野教会を出発し、順調に東京本部へ到着した。この日は光守様もお出ましされ、東京教会では浄霊体験日が行われることになっていたことから、東京教会信徒の皆さん共々のお出迎えとなった。一同が揃ったところで会長先達に



会長先達のもと参拝される長野教会信徒の皆さん

より、大光明様、幽世大神様、みろく大黒天神様への参拝が執り行われた。その後、会長の挨拶に続き参拝者の中で輝霊光納斎殿に納斎されている親族を対象に祖霊殿にて慰霊参拝が執り行われ、参拝者一人ひとりが献花を捧げるなど懇ろなる参拝が執り行われた。また、浄霊体験日でもあることから東京教会の信徒より浄霊を頂く姿も多く見受けられた。さらに、光守様の深い御心により昼食がふるまわれ、秋の味覚を存分に味わいながらも笑い声が絶えない、にぎやかな食事となった。食後はロビーでくつろいだり、小田急線の工事以降、様変わりした本部周辺を散策するなどしてゆったりとしたひと時を過ごした。いよいよ出発時刻をむかえた信徒の皆さんは身支度を整え、大光明、



光守様を囲んでの記念撮影



慰霊参拝では一人ひとりによる献花が行われた

明主様の大きい愛に満ちた神光を頂き、本部を後にして帰路についた。

特別大祈願のご案内

令和七年立春祭の佳日に特別大祈願を執り行わせて頂きます。

今年一年の願いを特別大祈願書に書きため、大光明、明主様に誓願させて頂きましょう。特別大祈願は信徒のみならず、未信徒の方も対象となりますので、神様の御光に包まれて一年を過ごすことが出来ますよう、身近な方などにお声がけをされてはいかがでしょうか。祈願書をお捧げされた方には守護鈴『光鈴』が御下賜されます。

*祭典日 令和七年二月三日(月) 十時

*参拝所 東京本部、各布教拠点 (教会、光導所)

*当日は東京本部での祭典の様子をYouTubeにてライブ配信いたします。

*特別大祈願書は所属の布教拠点にてお受け取り下さい。祈願書は信徒向け、未信徒向けとありますのでお間違えの無いようお願い致します。

*特別大祈願書は祭典日前までに御玉串料を添えて所属の布教拠点に奉納していただきますようお願い致します。

*ご不明な点がございましたら所属の布教拠点までお問い合わせ下さい。